

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
児童発達支援 放課後等デイサービス いと		2026年3月25日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		定員に対して広いスペースが確保されている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		職員の急な欠勤に対応できる十分な人数を配置している。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		部屋に絵や文字で表示している。 靴を入れる場所を個別にわかりやすく表示している。 危険が伝わるよう扉が開く箇所のマットの色を変えている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		小集団での活動も可能なスペースが確保されている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		子どもの特性やその日の様子、他児の状況に合わせて部屋を使い分けている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		日常のコミュニケーションと会話の中から振り返りを行い、問題点を見つけて会議を利用して参画している。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		結果を職員全員が把握しておりすぐに改善に向かう手立てを話し合っている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		日常のコミュニケーションと会話を密にしながらか問題点を会議し、会議に参加できていない職員には会議録の閲覧を進めている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7		現在は利用者と社内の二者評価をとっている。 第三者による外部評価については、現在実施の予定はないが、今後必要に応じて実施を検討する。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		毎月社内研修を行い定期的に社外研修にも参加し資質向上に繋げている。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		皆で現状把握した後、プログラムが作成されいつでも閲覧することができる。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		定期的なモニタリングを行うとともに送迎時に保護者の意見を伺うようにしている。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		計画を作成する前に職員で話し合い子どもの様子を把握している。 会議だけでなく普段から子どもについての話し合い、より成長する方法について考える機会が多くある。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		共有した計画をもとにそれぞれの得意、不得意を理解したうえで療育や生活の場での支援を行っている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		社内のアセスメントツールを利用し策定している。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		放課後等デイサービスガイドラインを理解し、一人ひとりに合った支援内容を設定している。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		大きな活動内容については必ずチームで立案し、日々の活動については個別で考える機会もありながら相談し合っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		毎回異なるプログラムを設定し活動におけるねらいも領域が被らないようにしている。サービス記録や伝達事項をもとに個々に合わせたプログラムを考え子どもたちも楽しみながら取り組めるよう工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		日々の活動に置いて必ず個別活動と小集団活動を取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		その日の活動内容について必ず全職員が把握し分担するようになっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		療育中の気付きはもちろん生活や遊びの場での気付きも職員間で共有し今後の支援につなげている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		課題の取り組みや子供の様子について個別に記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		以前より成長していること、新たに支援が必要だと感じることなど、モニタリングを通し保護者と話し合いを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7		1つだけに偏らないよう毎日の活動に取り入れている。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		選択する力が育つよう、まずは複数の選択肢を提示している。指導員が手を差し伸べるだけでなく、自分自身で生き抜く力を養うために課題を提供している。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		市で行われる交流会や担当者会議に参加し、情報共有と相互理解を図れるようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校から毎月下校時刻を明記したプリントをもらったり下校前の子どもの様子を知らせてもらったりしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		現在利用している利用者に該当する利用者がいないが、今後いた場合は対応していく。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイザーや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		より高い指導スキルを持つ育成者やスーパーバイザーの研修や助言を受け資質向上に努めている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	7		今後検討していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7			
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7		支援内容の一方的なやりとりだけでなく送迎時の少しの時間も様子を伝え合うようにしている。		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		定期的に座談会やイベントを企画して参加してもらっている。		

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		入所時に必ず行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		定期的に面談し、子どもや家族の意向を確認する機会を設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		「放課後等デイサービス計画」を提示し、必ず同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		送迎の時間では足りない時は面談の場を設けて対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	7		保護者会イベントではテーマから子どもたちの悩みを保護者間で話し合う機会を設け、活発に意見交換をした。また、きょうだい児も一緒に参加し共に楽しめる空間を提供している。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		もし相談や申し入れがあった場合すぐに会社全体で話し合い解決策を考え迅速かつ適切に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		個人情報に気をつけながらSNSで療育の様子をアップしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報が記載された書類は鍵付きキャビネットに保管している。個人情報に関しては、社外への持ち出しを禁止し、守秘義務を守っている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		マークや絵・文字など子供に合わせて使い切りやすいようにしている。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7			今現在は子どもたちの療育を最優先にしているためやっではないが今後検討していきたい。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		職員・家族に周知し訓練を行っている。訓練後様子を家族にHUGやインスタグラムで伝えている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		業務継続計画（BCP）を策定し、月に一度、色々な想定で訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		契約時や利用後に起きた場合は保護者の方から状況を聞き、職員全体で把握している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		食事やおやつ提供はないが、契約時にアレルギーの有無を確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		マニュアルを作成し、定期的に見直し安全管理を十分に行っている。毎日の送迎車両点検のためにチェックリストを作成している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		入所時に必ず行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハット事例が起きた時は、報告書を作成し、職員間で話し合い情報を共有し再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		マニュアルを作成し、研修会に参加している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		研修会に参加し職員間で対応を話し合いマニュアルを作成している。また保護者の方には契約時に説明している。	